

平成26年度地方公営企業決算の概要

目次

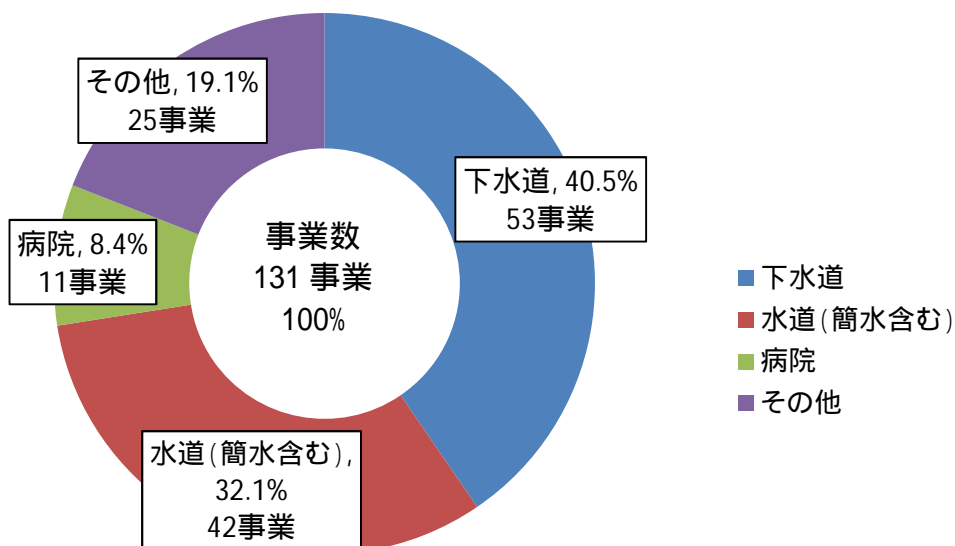
1 . 事業数	1
2 . 職員数	3
3 . 決算規模	4
4 . 経営状況	5
5 . 料金収入	6
6 . 企業債	
(1) 企業債発行額	7
(2) 企業債現在高	8
(3) 企業債元利償還金	9
7 . 他会計繰入金	10
8 . 建設投資額	11
9 . 累積欠損金	12
10 . 用語解説	13

1. 事業数

事業数は、平成 26 年度末現在 131 事業（法適用企業 34 事業、法非適用企業 97 事業）で、前年度末に比べ介護事業が 1 事業減少している。

事業別にみると、下水道事業が最も多く、次いで水道事業（簡易水道事業を含む）、病院事業となっている。

事業数の状況



事業数の推移

(単位：事業、%)

区分	22	23	24	25	26	対前年度比較		
						増減数	増減率	
法適用企業	上水道	17	17	17	17	17	0	0.0
	病院	11	11	11	11	11	0	0.0
	観光施設	2	2	2	2	2	0	0.0
	市場	1	1	1	1	1	0	0.0
	交通	1	1	1	1	1	0	0.0
	下水道	2	2	2	2	2	0	0.0
	小計	34	34	34	34	34	0	0.0
法非適用企業	簡易水道	26	26	25	25	25	0	0.0
	下水道	50	51	51	51	51	0	0.0
	観光施設	7	7	7	7	7	0	0.0
	宅地造成	4	4	6	6	6	0	0.0
	介護	10	10	9	8	7	1	12.5
	電気	0	0	0	1	1	0	0.0
	小計	97	98	98	98	97	1	1.0
合計	131	132	132	132	131	1	0.8	

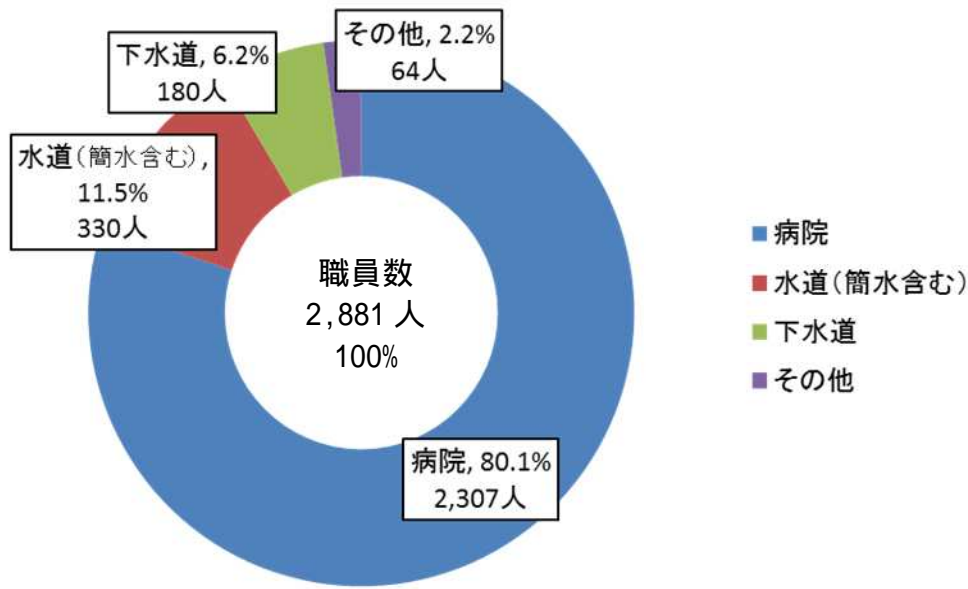
(注) 各項目の数値は、表示単位未満を四捨五入したものである。したがって、その内訳を合計した数値は合計欄の数値と一致しない場合がある。(次頁以降において同じ)

2. 職員数

職員数は、平成 26 年度末現在 2,881 人で、医療提供体制の充実等に伴う病院事業での増加などにより、前年度末に比べ 245 人増加している。

事業別にみると、病院事業が最も多く、次いで水道事業（簡易水道事業を含む）、下水道事業となっている。

職員数の状況



職員数の推移

(単位：人、%)

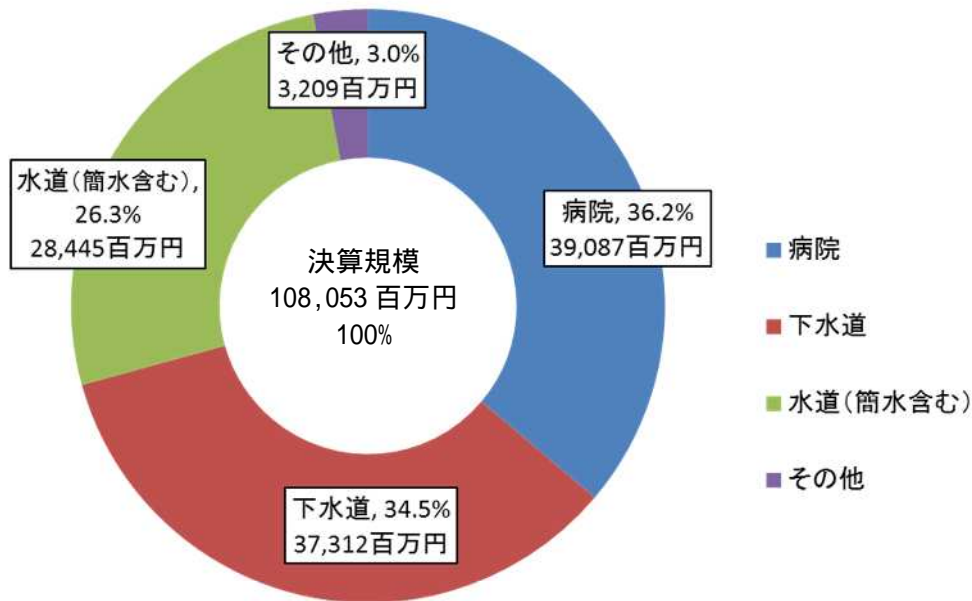
区分	22	23	24	25	26	対前年度比較		
						増減数	増減率	
法適用企業	上水道	291	292	284	274	255	19	6.9
	病院	1,916	1,924	1,984	2,030	2,307	277	13.6
	観光施設	21	21	18	18	17	1	5.6
	市場	17	15	10	9	9	0	0.0
	交通	1	1	1	1	1	0	0.0
	下水道	53	52	52	52	52	0	0.0
	小計	2,299	2,305	2,349	2,384	2,641	257	10.8
法非適用企業	簡易水道	80	74	73	75	75	0	0.0
	下水道	135	130	126	126	128	2	1.6
	観光施設	5	4	10	10	10	0	0.0
	宅地造成	1	1	1	1	1	0	0.0
	介護	46	38	38	37	23	14	37.8
	電気	0	0	0	3	3	0	0.0
	小計	267	247	248	252	240	12	4.8
合計	2,566	2,552	2,597	2,636	2,881	245	9.3	

3. 決算規模

決算規模は、1,080億53百万円で、前年度に比べ69億20百万円、6.8%増加しており、普通会計の決算規模(3,883億26百万円)と比べると27.8%(前年度27.0%)に相当している。

事業別にみると、病院事業が最も大きく、次いで下水道事業、水道事業(簡易水道事業を含む)となっている。

決算規模の状況



決算規模の推移

(単位：百万円、%)

区分	22	23	24	25	26	対前年度比較		
						増減額	増減率	
法適用企業	上水道	20,105	18,768	19,465	20,369	20,666	297	1.5
	病院	33,759	32,966	36,341	35,642	39,087	3,445	9.7
	観光施設	891	851	896	868	925	57	6.6
	市場	342	350	757	396	534	138	34.8
	交通	17	14	15	17	19	2	11.8
	下水道	10,748	9,963	9,436	10,193	10,933	740	7.3
	小計	65,862	62,912	66,910	67,485	72,164	4,679	6.9
法非適用企業	簡易水道	7,286	6,810	7,474	6,900	7,779	879	12.7
	下水道	26,908	25,940	25,726	25,546	26,379	833	3.3
	観光施設	362	392	366	403	392	11	2.7
	宅地造成	395	891	287	219	757	538	245.7
	介護	635	603	508	482	473	9	1.9
	電気	-	-	-	98	109	11	11.2
	小計	35,586	34,636	34,361	33,648	35,889	2,241	6.7
合計	101,448	97,548	101,271	101,133	108,053	6,920	6.8	

(注) 決算規模の算出は次のとおりとした。

法適用企業：総費用(税込み) - 減価償却費 + 資本的支出

法非適用企業：総費用 + 資本的支出 + 積立金 + 繰上充用金

4. 経営状況

公営企業全体の総収支は、マイナス1億55百万円で、前年度に比べ7億74百万円減少している。
 なお、黒字事業は115事業で、全体の87.8%を占めている。

経営状況

(単位：事業)

区分	22			23			24			25			26			
	総事業数	黒字事業	赤字事業	総事業数	黒字事業	赤字事業	総事業数	黒字事業	赤字事業	総事業数	黒字事業	赤字事業	総事業数	黒字事業	赤字事業	
法適用企業	上水道	17	10	7	17	10	7	17	9	8	17	10	7	17	11	6
	病院	11	5	6	11	6	5	11	6	5	11	6	5	11	2	9
	観光施設	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0
	市場	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0
	交通	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1
	下水道	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0
	小計	34	21	13	34	22	12	34	21	13	34	22	12	34	18	16
法非適用企業	簡易水道	26	26	0	26	26	0	25	25	0	25	25	0	25	25	0
	下水道	50	50	0	51	51	0	51	51	0	51	51	0	51	51	0
	観光施設	7	7	0	7	7	0	7	7	0	7	7	0	7	7	0
	宅地造成	4	4	0	4	4	0	6	6	0	6	6	0	6	6	0
	介護	10	10	0	10	10	0	9	9	0	8	8	0	7	7	0
	電気	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0
	小計	97	97	0	98	98	0	98	98	0	98	98	0	97	97	0
合計	131	118	13	132	120	12	132	119	13	132	120	12	131	115	16	
総事業数に対する割合		90.1%	9.9%		90.9%	9.1%		90.2%	9.8%		90.9%	9.1%		87.8%	12.2%	

経営状況（事業別総収支額）

(単位：百万円、%)

区分	22	23	24	25	26	対前年度比較		
						増減額	増減率	
法適用企業	上水道	925	154	771	925	1,538	613	66.3
	病院	957	309	1,266	957	3,306	2,349	245.5
	観光施設	18	8	26	18	10	8	44.4
	市場	13	0	13	13	9	4	30.8
	交通	6	2	3	6	5	11	183.3
	下水道	12	3	9	12	938	926	7,716.7
	小計	16	460	444	16	816	832	5,200.0
法非適用企業	簡易水道	219	134	143	181	160	21	11.6
	下水道	337	443	383	374	432	58	15.5
	観光施設	9	9	7	7	8	1	14.3
	宅地造成	38	71	6	4	3	1	25.0
	介護	22	23	17	21	27	6	28.6
	電気	-	-	-	16	31	15	93.8
	小計	625	680	556	602	661	59	9.8
合計	609	220	112	619	155	774	125.0	

(注) 総収支額は、法適用企業にあっては純損益、法非適用企業にあっては実質収支であり、他会計繰入金等を含む。

5. 料金収入

料金収入は、526億9百万円で、前年度に比べ17億40百万円、3.4%増加している。
事業別にみると、病院事業が最も多く、次いで上水道事業、下水道事業となっている。

料金収入の推移

(単位：百万円、%)

区分		22	23	24	25	26	対前年度比較	
							増減額	増減率
法適用企業	上水道	12,633	12,758	12,669	12,703	12,466	237	1.9
	病院	25,093	25,830	26,266	26,263	28,082	1,819	6.9
	観光施設	882	910	927	888	954	66	7.4
	市場	190	179	164	167	164	3	1.8
	交通	20	17	22	24	15	9	37.5
	下水道	3,356	3,401	3,364	3,332	3,283	49	1.5
	小計	42,174	43,096	43,411	43,376	44,964	1,588	3.7
法非適用企業	簡易水道	2,803	2,460	2,446	2,452	2,454	2	0.1
	下水道	4,094	4,185	4,302	4,397	4,509	112	2.5
	観光施設	96	87	94	88	97	9	10.2
	宅地造成	0	0	0	0	20	20	皆増
	介護	533	541	445	442	441	1	0.2
	電気	-	-	-	114	124	10	8.8
	小計	7,526	7,272	7,287	7,493	7,645	152	2.0
合計	49,701	50,368	50,699	50,869	52,609	1,740	3.4	

総収益に占める料金収入の比率

(単位：百万円、%)

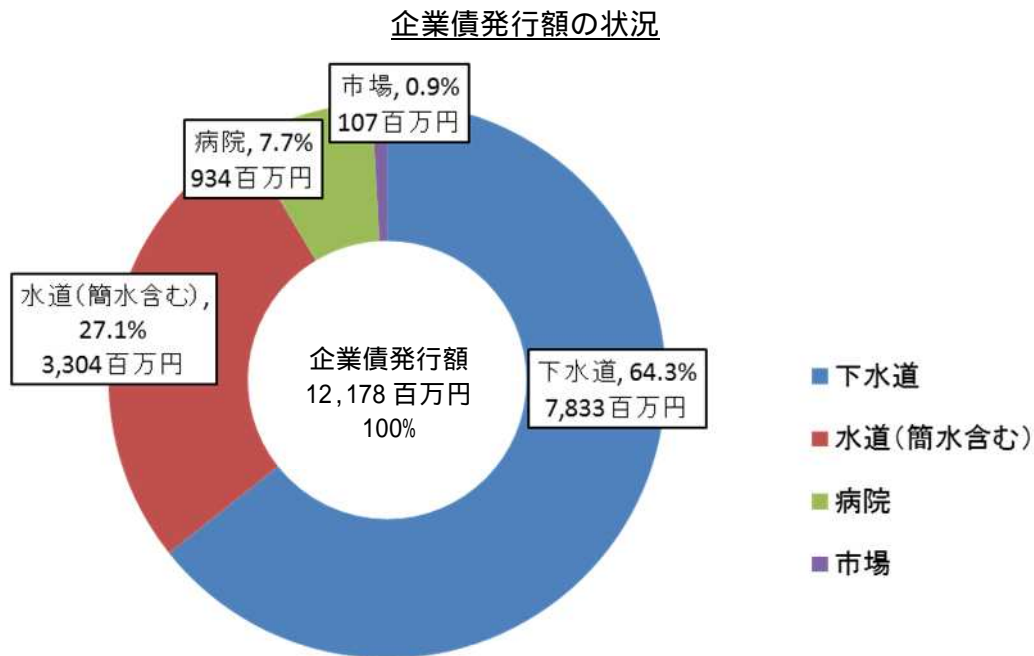
区分		22		23		24		25		26		対前年度比較 増減
		総収益	比率	総収益	比率	総収益	比率	総収益	比率	総収益	比率	
法適用企業	上水道	14,745	85.7	14,750	86.5	14,937	84.8	14,838	85.6	17,615	70.8	14.8
	病院	29,202	85.9	30,073	85.9	30,720	85.5	30,949	84.9	34,601	81.2	3.7
	観光施設	883	99.9	910	99.9	928	99.9	888	100.0	965	98.9	1.1
	市場	319	59.5	302	59.4	296	55.2	308	54.1	315	52.1	2.0
	交通	20	98.2	17	99.3	22	99.4	24	99.5	15	100.0	0.5
	下水道	5,654	59.4	5,652	60.2	5,425	62.0	5,595	59.6	7,488	43.8	15.8
	小計	50,823	83.0	51,704	83.4	52,328	83.0	52,602	82.5	60,999	73.7	8.8
法非適用企業	簡易水道	4,325	64.8	3,748	65.6	3,687	66.3	3,677	66.7	3,768	65.1	1.6
	下水道	12,879	31.8	13,311	31.4	13,161	32.7	13,072	33.6	13,374	33.7	0.1
	観光施設	253	38.1	239	36.5	237	39.9	262	33.7	243	39.9	6.2
	宅地造成	283	-	421	-	90	-	140	-	744	2.7	皆増
	介護	594	89.8	581	93.1	484	91.8	479	92.3	472	93.4	1.1
	電気	-	-	-	-	-	-	114	100.0	124	100.0	0.0
	小計	18,334	41.1	18,300	39.7	17,659	41.3	17,744	42.2	18,725	40.8	1.4
合計	69,157	71.9	70,004	72.0	69,988	72.4	70,346	72.3	79,724	2.2	70.1	

(注) 比率の数値は、総収益に占める料金収入比率である。

6. 企業債

(1) 企業債発行額

企業債発行額は、121億78百万円で、前年度に比べ7億98百万円、7.0%増加している。
 事業業別にみると、下水道事業が最も多く、次いで水道事業（簡易水道事業を含む）、病院事業、市場事業となっている。



企業債発行額の推移

(単位：百万円、%)

区分	22	23	24	25	26	対前年度比較		
						増減額	増減率	
法適用企業	上水道	2,375	1,332	1,695	2,242	1,961	281	12.5
	病院	1,027	316	1,527	1,325	934	391	29.5
	観光施設	0	0	0	0	0	0	0.0
	市場	0	0	358	66	107	41	62.1
	交通	0	0	0	0	0	0	0.0
	下水道	2,922	1,920	1,965	2,034	2,598	564	27.7
	小計	6,324	3,567	5,545	5,666	5,600	66	1.2
法非適用企業	簡易水道	845	976	1,126	887	1,343	456	51.4
	下水道	5,607	4,995	4,936	4,827	5,235	408	8.5
	観光施設	0	0	0	0	0	0	0.0
	宅地造成	0	0	0	0	0	0	0.0
	介護	0	0	0	0	0	0	0.0
	電気	-	-	-	0	0	0	0.0
	小計	6,452	5,971	6,062	5,713	6,578	865	15.1
合計	12,776	9,538	11,607	11,380	12,178	798	7.0	

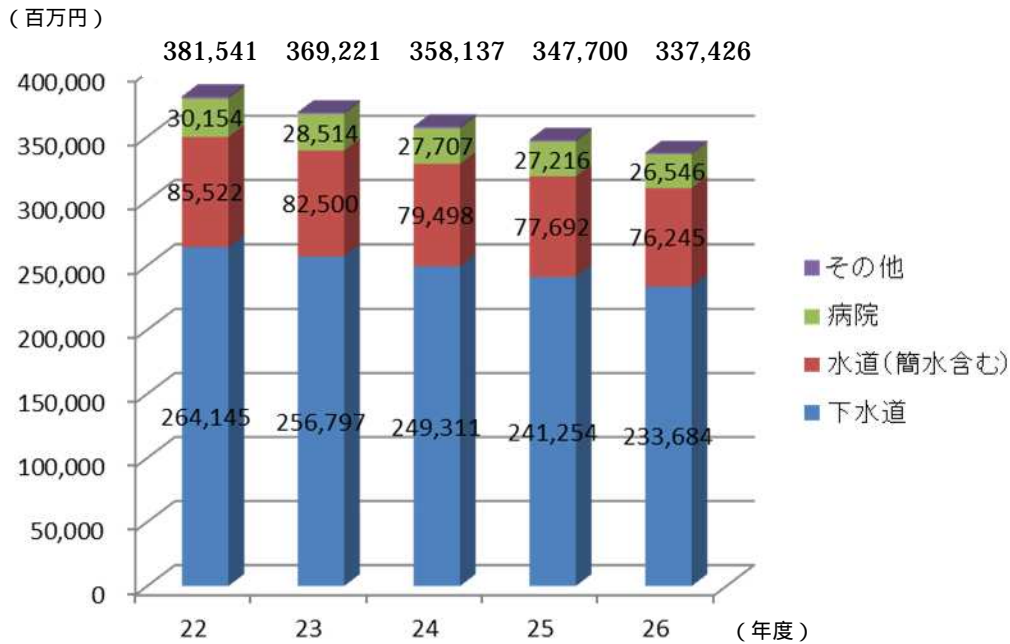
(注) 企業債発行額には、前年度同意等債で当年度収入分及び借換債を含み、当年度同意等債で未収入分は含まない。

(2) 企業債現在高

企業債現在高は、3,374億26百万円で、前年度に比べ102億74百万円、3.0%減少しており、平成22年度をピークに減少傾向となっている。

事業別にみると、下水道事業が最も多く、次いで水道事業(簡易水道事業を含む)病院事業となっている。

事業別企業債現在高の推移



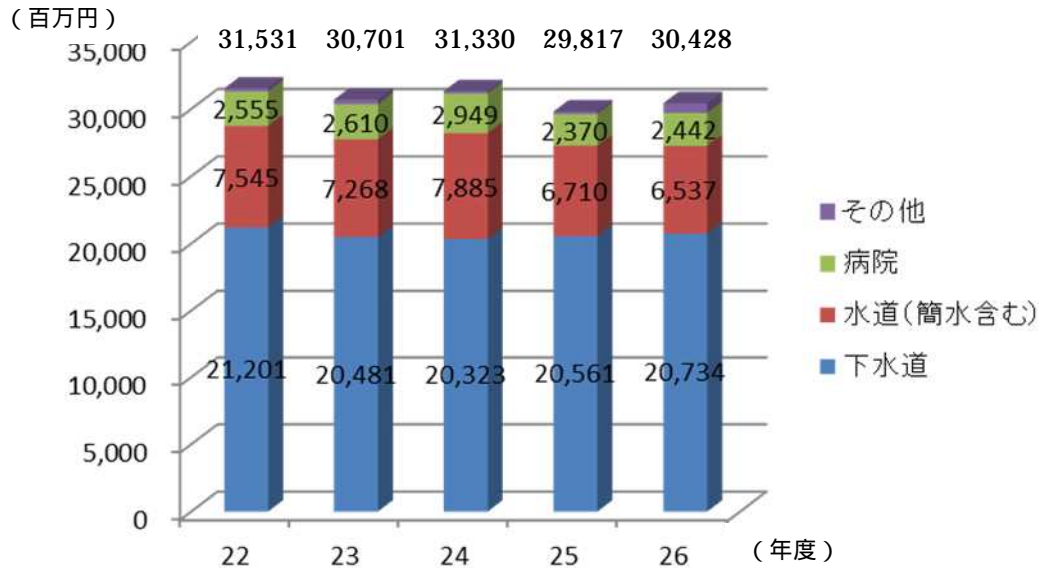
(単位：百万円、%)

区分	22	23	24	25	26	対前年度比較		
						増減額	増減率	
法適用企業	上水道	50,139	50,788	48,856	47,819	46,761	1,058	2.2
	病院	30,154	28,514	27,707	27,216	26,546	670	2.5
	観光施設	0	0	0	0	0	0	0.0
	市場	286	241	557	581	645	64	11.0
	交通	0	0	0	0	0	0	0.0
	下水道	66,212	63,611	61,268	58,916	57,160	1,756	3.0
	小計	146,791	143,154	138,388	134,533	131,112	3,421	2.5
法非適用企業	簡易水道	35,383	31,712	30,642	29,873	29,484	389	1.3
	下水道	197,933	193,186	188,043	182,338	176,524	5,814	3.2
	観光施設	655	559	462	362	277	85	23.5
	宅地造成	707	557	557	557	0	557	皆減
	介護	74	54	46	38	29	9	23.7
	電気	-	-	-	0	0	0	0.0
	小計	234,750	226,067	219,749	213,168	206,314	6,854	3.2
合計	381,541	369,221	358,137	347,700	337,426	10,274	3.0	

(3) 企業債元利償還金

企業債元利償還金は、304億28百万円で、前年度に比べ6億11百万円、2.0%増加している。
事業別にみると、下水道事業が最も多く、次いで水道事業(簡易水道事業を含む)、病院事業となっている。

企業債元利償還金の推移



(注) 公的資金補償金免除線外償還分を含む

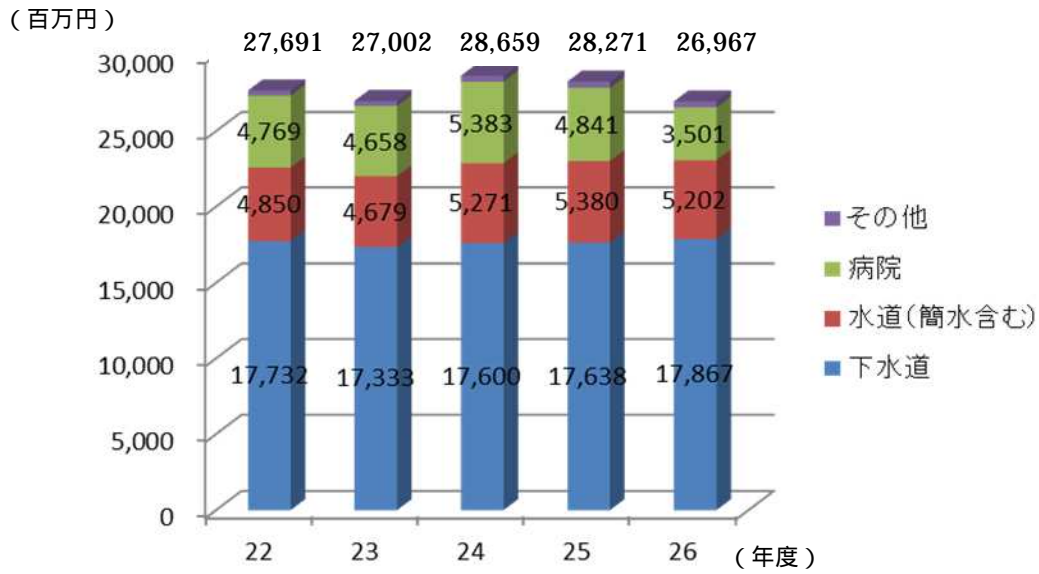
(単位：百万円、%)

区分	22	23	24	25	26	対前年度比較		
						増減額	増減率	
法適用企業	上水道	5,094	5,014	5,300	4,439	4,126	313	7.1
	病院	2,555	2,610	2,949	2,370	2,442	72	3.0
	観光施設	0	0	0	0	0	0	0.0
	市場	59	59	53	56	57	1	1.8
	交通	0	0	0	0	0	0	0.0
	下水道	6,316	6,139	5,831	5,816	5,683	133	2.3
	小計	14,023	13,822	14,133	12,681	12,308	373	0.0
法非適用企業	簡易水道	2,451	2,254	2,585	2,271	2,411	140	6.2
	下水道	14,886	14,342	14,492	14,745	15,051	306	2.1
	観光施設	107	107	107	107	91	16	15.0
	宅地造成	43	155	4	4	558	554	0.0
	介護	21	21	9	9	9	0	0.0
	電気	-	-	-	0	0	0	0.0
	小計	17,508	16,879	17,197	17,136	18,120	984	5.7
合計	31,531	30,701	31,330	29,817	30,428	611	2.0	

7. 他会計繰入金

他会計繰入金は、269億67百万円で、前年度に比べ13億4百万円、4.6%減少している。
事業別にみると、下水道事業が最も多く、次いで水道事業（簡易水道事業を含む）、病院事業となっている。

地方公営企業への他会計繰入金の推移



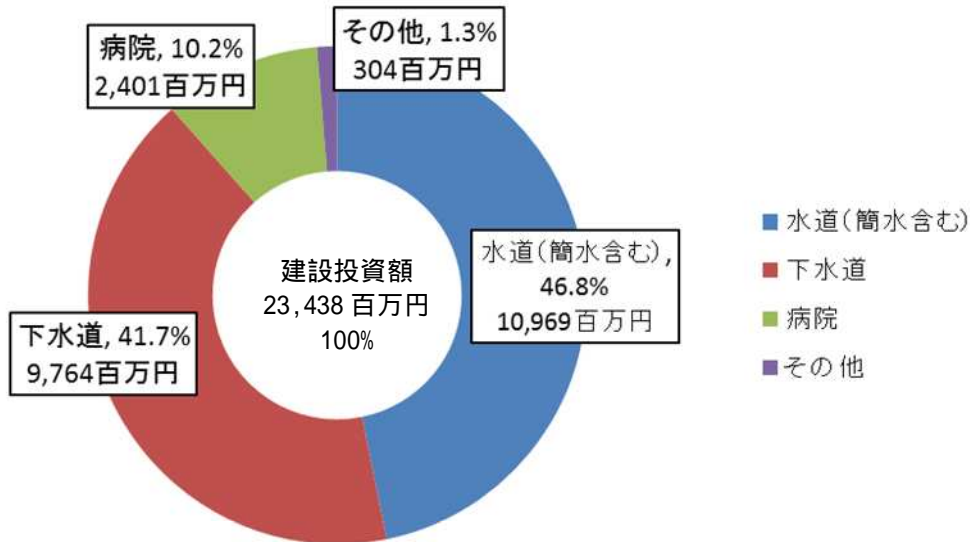
(単位：百万円、%)

区分	22	23	24	25	26	対前年度比較		
						増減額	増減率	
法適用企業	上水道	2,073	2,039	2,101	2,556	2,334	222	8.7
	病院	4,769	4,658	5,383	4,841	3,501	1,340	27.7
	観光施設	0	0	0	0	0	0	0.0
	市場	83	81	80	80	80	0	0.0
	交通	0	0	0	0	0	0	0.0
	下水道	3,695	3,634	3,610	3,650	3,646	4	0.1
	小計	10,620	10,411	11,174	11,127	9,561	1,566	14.1
法非適用企業	簡易水道	2,777	2,640	3,170	2,824	2,868	44	1.6
	下水道	14,037	13,699	13,990	13,988	14,221	233	1.7
	観光施設	208	215	204	226	287	61	27.0
	宅地造成	12	10	99	93	13	80	86.0
	介護	37	27	22	13	17	4	30.8
	電気	-	-	-	0	0	0	0.0
	小計	17,071	16,590	17,485	17,144	17,406	262	1.5
合計	27,691	27,002	28,659	28,271	26,967	1,304	4.6	

8. 建設投資額

建設投資額は、234億38百万円で、前年度に比べ6億64百万円、2.9%増加している。
事業別にみると、水道事業（簡易水道事業を含む）が最も多く、次いで下水道事業、病院事業となっている。

建設投資額の状況



建設投資額の推移

(単位：百万円、%)

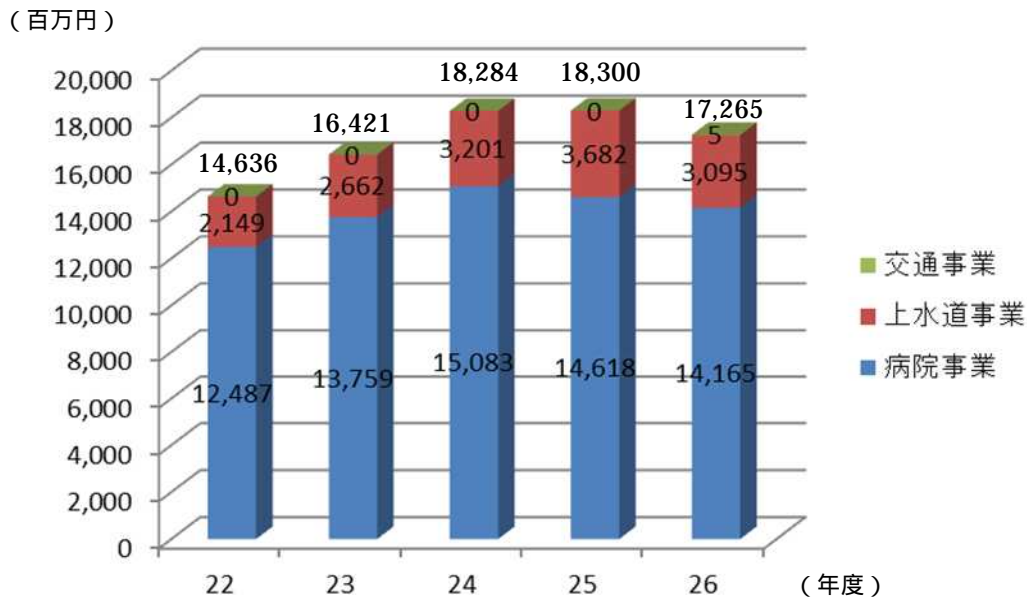
区分	22	23	24	25	26	対前年度比較		
						増減額	増減率	
法適用企業	上水道	7,310	5,957	6,310	8,374	8,424	50	0.6
	病院	4,168	1,788	3,973	3,546	2,401	1,145	32.3
	観光施設	61	5	24	28	2	26	92.9
	市場	15	35	457	99	234	135	136.4
	交通	3	0	0	0	0	0	0.0
	下水道	2,761	2,111	1,998	2,516	3,483	967	38.4
	小計	14,318	9,895	12,761	14,563	14,544	19	0.1
法非適用企業	簡易水道	1,751	1,923	2,313	1,981	2,545	564	28.5
	下水道	7,598	6,937	6,345	6,064	6,281	217	3.6
	観光施設	18	54	30	50	53	3	6.0
	宅地造成	271	323	163	99	13	86	86.9
	介護	20	3	9	0	2	2	皆増
	電気	-	-	-	18	0	18	皆減
	小計	9,658	9,241	8,860	8,211	8,894	683	8.3
合計	23,976	19,136	21,621	22,774	23,438	664	2.9	

(注) 建設投資額とは、資本的支出の建設改良費である。

9. 累積欠損金

累積欠損金は、172億65百万円となっており、前年度に比べ10億35百万円、5.7%減少している。
 (累積欠損金がある事業は、上水道事業、病院事業及び交通事業の3事業)

累積欠損金の推移



(単位：百万円、%)

	22		23		24		25		26		対前年度比較	
	累積欠損額	事業数	累積欠損額	事業数	累積欠損額	事業数	累積欠損額	事業数	累積欠損額	事業数	増減額	増減率
上水道事業	2,149	7	2,662	7	3,201	7	3,682	7	3,095	3	587	15.9
病院事業	12,487	9	13,759	8	15,083	8	14,618	8	14,165	7	453	3.1
交通事業	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	5	皆増
合計	14,636	16	16,421	15	18,284	15	18,300	15	17,265	11	1,035	5.7

(注) 累積欠損金は、法適用企業のみ対象としている。

【法適用企業】

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）の全部又は財務規定を適用している事業であり、経理事務を企業会計方式で行っているもの。

【法非適用企業】

地方財政法施行令第46条に掲げる事業、有料道路事業、駐車場整備事業及び介護サービス事業のうち、地方公営企業法を適用していない事業であり、経理事務を官庁会計方式で行っているもの。

なお、地方公営企業決算状況調査においては、官庁会計による歳入歳出を法適用企業に準じて区分し、経常的な経営収支を収益的収支として、また、建設改良費、地方債償還金及びこれに対応する財源等を資本的収支として表示している。

【純損益】

法適用企業において、総収益から総費用を差し引いた額をいう。

なお、純損益の数値がプラスであれば「純利益」、マイナスであれば「純損失」と呼び、地方公営企業決算では、それぞれを黒字、赤字と呼んでいる。

法適用企業のみ概念。法非適用企業については実質収支参照。

【実質収支】

法非適用企業において、歳入歳出差引額（形式収支）から翌年度へ繰越すべき財源を除いたものを行い、実質収支がプラスであれば黒字、マイナスであれば赤字と呼んでいる。

【累積欠損金】

法適用企業において、営業活動によって損失（赤字）を生じた場合に、繰越利益剰余金、利益積立金等によってもなお補填ができなかった各事業年度の損失（赤字）額が累積したものをいう。

累積欠損金は、経常費用に占める資本費（減価償却費及び支払利息）の比率の高い事業において増大する傾向がある。このうち、減価償却費は現金支出を伴わないため、これを原因とする損失（赤字）額により生じた累積欠損金が事業全体の資金不足に直接つながるものではないが、累積欠損金が多い事業においては、より一層の収益性の向上を図るとともに、経常費用の合理化等により効率性を発揮し、経営の健全化を推進していくことが求められる。